

日本パペットセラピー学会第16回大会 大会長ご挨拶



中下 富子（群馬パース大学）

新型コロナウイルス感染症のパンデミックに、感染対策のための自粛的な生活を余儀なくされています。このようななか、子どもたちにどのようなことが起こっているのか、パペットセラピーはどのような可能性を秘めているのか探っていきたいと考え、日本パペットセラピー学会第16回大会は、「コロナ禍の子どもたちへのパペットセラピーの可能性」をテーマといたしました。

テーマに迫るために、コロナ禍における幼児期から青年期に至るまでの様々な子どもたちのおかれている状況を共有していきたいと考え、お二人のご講演を企画いたしました。

初めに、教育講演では、都丸千寿子先生（群馬パース大学福祉専門学校副校長）をお招きしております。都丸先生は、幼稚園・小学校教育においてリーダー的な立場でご活躍されており、子どもたちを研ぎ澄まされた感性で捉えられた「今、子どもたちの育ちについて心配に思うこと」についてご講演をいただきます。

また、特別講演には、竹内一夫先生（群馬大学健康支援センター副センター長）をお迎えしております。竹内先生は、精神科医として青年期にある生徒や大学生に日々多様な支援をされており、コロナ禍の今だからこそ、子どもたちに何が求められているのか、臨床に即した「若年者のメンタルヘルス支援の動向」についてご講演をいただきます。

さらに、研究・実践発表では、生活に身近なソックスで作成したパペットによるパペットセラピー、パペットセラピーによる継続的な地域実践活動、療育センターでの在宅支援におけるパペットセラピーといった、子どもたちへのパペットセラピーを活用した取り組みをご発表いただきます。

話題提供といたしまして、「スーザン・リン著 近喰ふじ子監訳『ごっこ遊びの理論と事例 —The Case For Make Believe—』 医学出版社（2021）」を翻訳されました近喰ふじ子理事が本著を介したパペットセラピーの理論についてご紹介いたします。併せて、本学会として初の「短期腹話術講座（初心者向け）」のご紹介もいたします

最後に、本大会メインとなるシンポジウムでは、幼稚園や保育園、小学校、特別支援学校、医療機関それぞれの分野で、ご活躍されておられるパペットセラピストの方々にご登壇いただきます。パペットセラピーを実践される中で、多様な子どもたちの反応から何がみえてくるのか、ここからテーマである「コロナ禍の子どもたちへのパペットセラピーの可能性」を参加者の皆様とともに探っていきたいと思えます。

皆様のご期待に応える大会（当日・前夜祭）となりますよう、関係者一同準備を進めております。どうぞ奮って、第16回大会にご参加くださいますよう、お願い申し上げます。